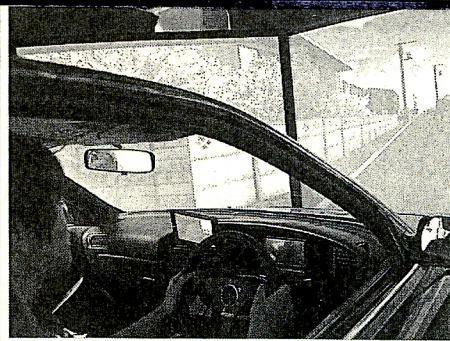


高齢者向けEV開発へ

香川大と県内企業

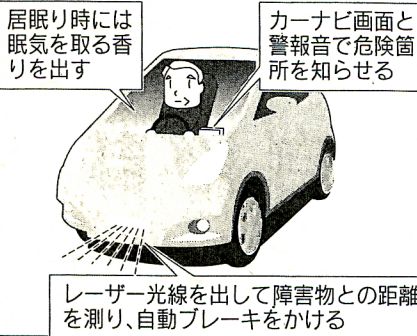
香川大学と香川県内の自動車関連企業は高齢者向けに安全性を高め、小型電気自動車(EV)を開発する。緊急時に自動ブレーキがかかったり、事故の多い交差点に差し掛かったときに警報音を鳴らしたりするシステムを開発、2013年3月までに試作品の完成を目指す。少子高齢化が進む中、安全性に配慮した車の需要が広がると見込む。

自動ブレーキ 警報など装備



シミュレーションなどを踏まえ来年3月までに試作品の完成を目指す

安全性の高いEVを開発する



レーザ光線を出して障害物との距離を測り、自動ブレーキをかける

香川大工学部が県内の自動車関連企業などをつくる次世代自動車関連技術開発研究会(EV研究会)と「マイクロカー」と呼ばれる幅1・3メートル、長さ2・5メートル、高さ2メートルの1人乗り小型車両を開発する。

搭載する。自動ブレーキ装置も備える。車体前方からレーザー光線を照射して障害物との距離を常時測定し、極端に近づいたときにはブレーキがかかり衝突を回避する。

将来は居眠り警報システムも搭載する。運転手の表情を撮影し、目を閉じていたり顔が下を向いているときには警報を鳴らすほか、エアコンの吹き出し口からスギやヒノキに含まれている眠気を取るとされる香りを噴出する。

現在、同大工学部内の研究室内で自動車を改造した実験装置でシミュレーションを実施中。年内にシステムを完成させ、13年3月までに実際のEVに組み込む計画を立てている。価格は60万円程度の見込み。

動力源となるモーター部品は当面、海外からの輸入品を使うが、将来はEV研究会の会員企業が、開発する製品を使う。年内をめどに県内企業だけで全部品の5割程度を生産する目標を立てた。

香川県の人口10万人当たりの交通事故死者数は7・63人で全国で最も多い。高齢化率も25・8%と全国平均の23%より高く、安全性の向上が課題となっていた。

タダノ、純利益49%増

今期クレーンに復興需要

タダノは26日、2013年3月期の連結純利益が前期比49%増の47億円になる見通しを発表した。従来予想を2億円上回る。海外向けは円高基調で押し上げる。

調の進展で利幅が縮小するが、国内で東日本大震災の復興需要関連のクレーン出荷が伸び、利益を押し上げる。

売上高は16%増の1320億円と従来予想を据え置いた。中東向けなど海外での建設用クレーンの販売が円高の影響で想定を下回るものの、国内は復興需要の伸びで車両

業績予想を修正

ニッポン高度紙工業は26日、2013年3月期の連結最終損益が3億6000万円の赤字(前期は3億1700万円の黒字)になる見通しだと発表した。09年3月期以来、4期ぶりに赤字になる見込み。従来予想は4億7000万円の黒字だった。主力のコンデンサー用絶縁紙でデジタル家電

プリント基板への印字 所要時間6分の1に

ヒカリが新装

機械メーカーのヒカリ(愛媛県東温市)は、プリント基板に文字を印字する高速印刷装置を11月

はプリント基板にしっかりと定着する。印刷できる基板サイズは最大縦51センチ、横61センチ、厚みは6ミリまで。印刷時間は10秒で、従来のヘッドを動かす方式だと1分程度かかっていた。印刷装置の国内での販売価格は2500万円程度を予定している。

松山「パルティフジ衣山」 3D映画、高画質で

シネマコンプレックス(複合映画館)を運営する佐々木興業(東京・豊島)は複合商業施設の「パルティフジ衣山(松山市)」内の映画館に、迫力ある映像や音響が売りで、3次元(3D)にも対応した映写システム「IMAXデジタルシアター」を導入する。12月1日

2月、新システム上映。同シアターはカナダの総合映像システム会社、IMAX社が開発。2台のプロジェクターによる高画質の明るい映像などが特徴だ。パルティフジ衣山では、同シアターを利用してまず「07シリーズ」の最新作「スライム」を上映する。同シアターは、景況感横ばい圏内で推移するとみている。

食品輸出商談

松山市で開催

シンガポール向け

商品の輸出入や見本市などイベントの企画を手